保育所等における食育とそれをめぐる研究課題

東京家政学院大学　酒井治子
http://www.kodomoshokuiku.jp/
hsakai@kasei-gakuin.ac.jp

今回の話題提供の内容

1. 研究(探求？)の動機と経緯
2. 食育をめぐる政策と国民運動
3. 子どもの食の育ち（家庭）と、研究課題
4. 保育所等における食育と、研究課題
5. 子どもの食育をめぐる政策課題
6. 今後の研究の方向性

食育⇔食を通した子育ちの環境整備

食を通した子ども・親・組織・地域のエンパワーメント

1．研究の動機と経緯

現在の教育・社会・研究活動

＜教育活動＞

栄養士養成：地域栄養教育学、食発達学、公衆栄養学
保育士養成：子どもの食と栄養

＜社会活動＞

2004年　厚生労働省雇用均等児童家庭局保育課から通知された「楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針」主任研究者
2006年　厚生労働省「保育所保育指針」改定に関する検討会委員
2011年　厚生労働省「保育所における食事の提供ガイドライン作成検討委員」
2013年　厚生労働省「認定こども園保育専門委員会委員」
2015年　農林水産省「フードチェーン食育活動推進事業」検討委員
2016年～農林水産省　「和食」と地域食文化継承推進委託事業のうち「子育て・若者世代への和食文化普及推進委託事業」普及推進検討会委員

＜研究活動＞

●保育所等での子どもの食育と保育者の支援方法（食事の提供を含む）
●フードシステム、ファーマーズマーケットを拠点とした食育のあり方
●和食を切り口とした子育て世代の食育
●自治体での地域食育推進計画策定・子どもの食育ネットワークづくり委員

大学時代

栄養学(nutrition)への戸惑い

- 子どもへの栄養教育（食育）の根拠は「何をどれだけ食べたらよいか（栄養所要量）」のみ
- 人体の成長のみに焦点が絞られ、「食」の場で発達する子どもに目が向けられていない
- 生体内の栄養素循環ではなく「人間食べること学」を

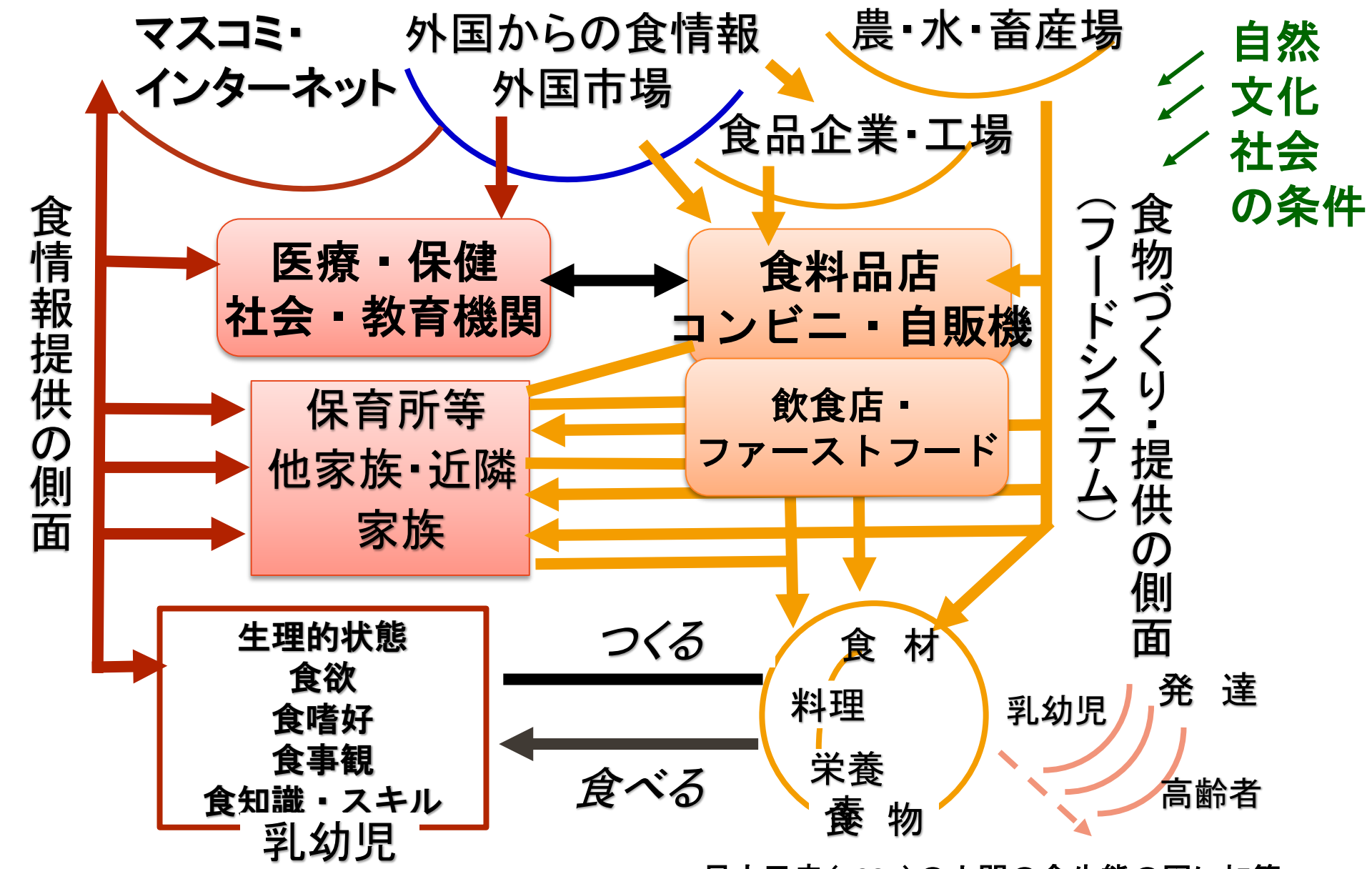
大学院時代

行動観察法の導入

Ｄｒ論文「幼児における食具を使って食べる行動の発達に関する食生態学的研究」（女子栄養大学　足立己幸　教授）

- 子どもは発達するからこそ、「人間の食の営み」の多面的な意味を理解しやすくしてくれる
- 「人間の食の営み」を、発達という縦糸と、食生態という横糸からできた織物として探求したい！

子どもをめぐる食生態



足立己幸（1987）の人間の食生態の図に加筆

食生態学とは

地域で生活する人々の多様な「食の営み」を個人的要因に加え、社会や環境、地域の仕組みを構造的に明らかにする学問。

- 具体的には，人々がそれぞれの生活の質（Quality of Life）の向上につながるような望ましい食生活やライフスタイル、
- さらにはそれらを実践しやすい食環境（フードシステムや栄養・食情報システム）について、階層的・構造的に明らかにし、その成果を現場の実践活動に生かすことをねらっている

足立己幸. 食生態学—実践と研究. 食生態学—実践と研究. 2008; 1: 2-5

2．食育をめぐる政策と国民運動

食育活動の創成期の経緯

～1997年　個人の活動として著書の出版や実践活動

1998～2000年　日本栄養士会「子どもの健康づくりと食育推進啓発委員会」

文部科学省「食に関する指導」の実施

2000年　厚生労働省「健康日本21」

農林水産省、文部科学省、厚生労働省「食生活指針」

2000～02年　県、保健所、市町村の地方計画の策定

地域食育計画の第１期

BSE等の食のリスク対策

2002年　農林水産省「食の安全運動国民会議」の発足　「食育」の促進

2003年　農林水産省：「食育」活動の総合的な展開

厚生労働省：食を通じた子どもの健全育成（食育）

文部科学省：栄養教諭の創設

2004年　次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画の策定

「食育」の推進　⇒　地域食育計画の第２期

「保育所における食育に関する指針」の策定

2005年　食育基本法が施行

2006年　食育推進基本計画　　健やか親子21の重点課題へ

都道府県版が策定中⇒　地域食育計画の第３期

食育基本法（議員立法）

－平成17年6月公布－

子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身に付けていくためには、何よりも「食」が重要である。今、改めて、食育を、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付けるとともに、**様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる**食育を推進することが求められている。子どもたちに対する食育は、**心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼし、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性をはぐくんでいく基礎**となるものである。

第３次　食育推進基本計画の重点課題

課題１

若い世代を中心とした食育の推進

課題２

多様な暮らしに対応した 食育の推進

課題３

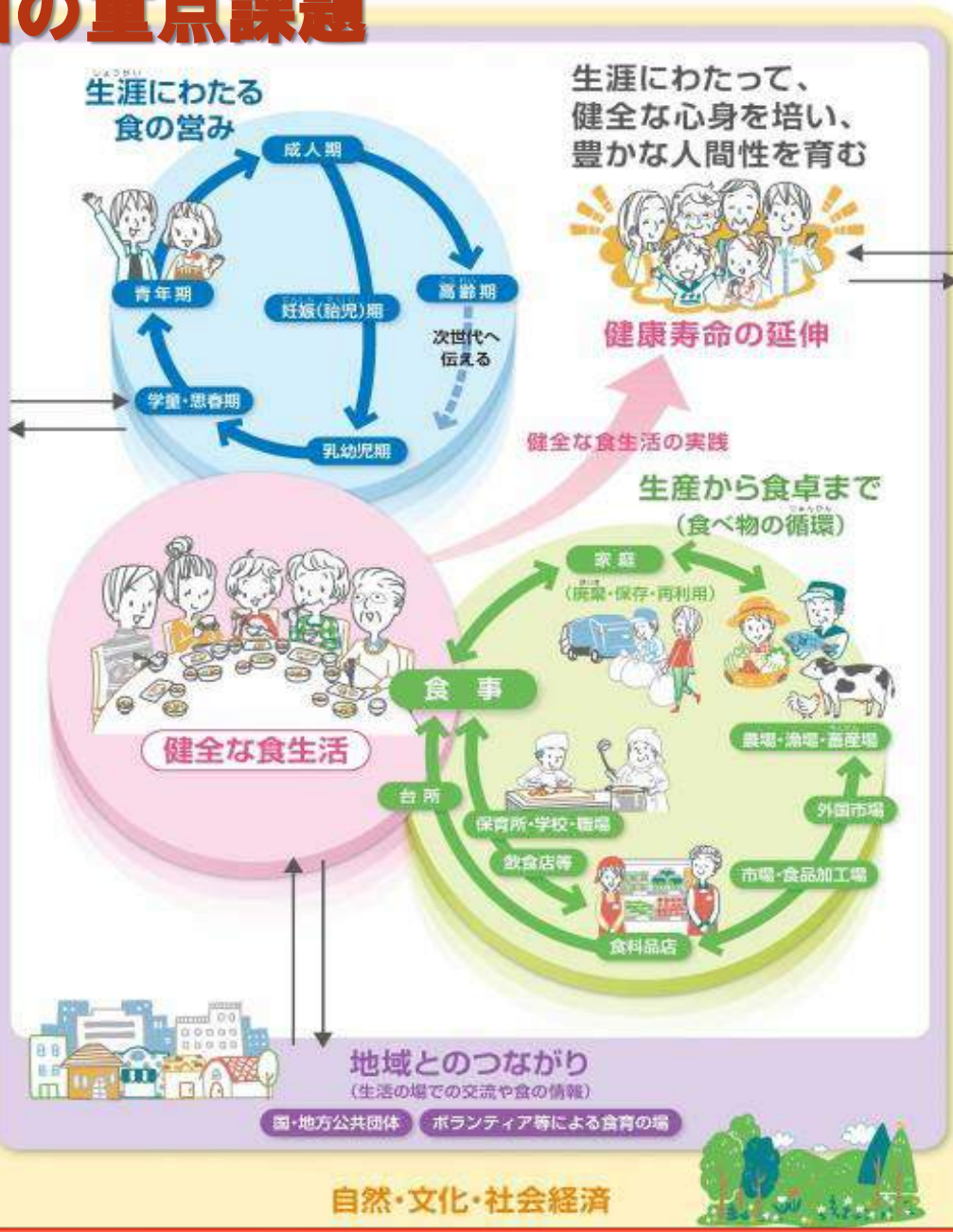
健康寿命の延伸につながる食育の推進

課題４

食の循環や環境を意識した食育の推進

課題５

食文化の継承に向けた食育の推進



健全な食生活を無理なく、自然に持続できるための 「力」の形成

和食文化とは

平成25年12月4日、
「和食；日本人の伝統的な食文化-正月を例として-」は、
ユネスコの人類の無形文化遺産の代表的な一覧表に登録。
「和食」を料理そのものではなく、
「自然を尊ぶ」という日本人の気質に基づいた
「食」に関する「習わし」という位置付け。

「伝統的な日本人の食文化」とは

特徴1.　多様で新鮮な食材と素材の味わいを活用

特徴2.　バランスがよく、健康的な食生活

特徴3.　自然の美しさの表現

特徴4.　年中行事との関わり

一般社団法人　和食文化国民会議より

3. 子どもの食の育ちと、研究課題

お母さん、悩みがいっぱい

食べる量が
少ないの

食べる量にむら
があって・・・

お野菜食べて
くれなくって

手づかみ
ばっかり

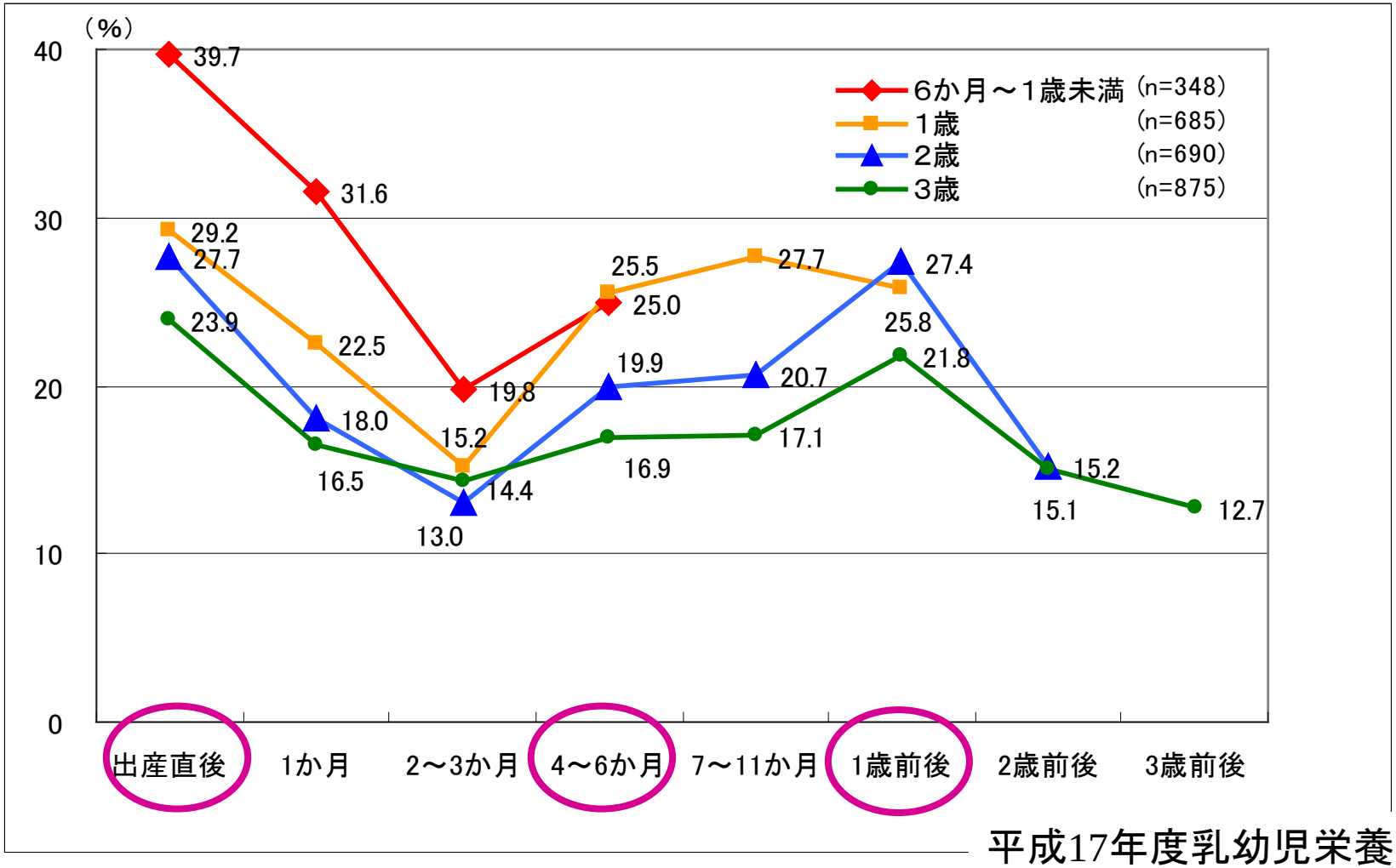
食べ物で遊んで
ばっかりで、
どんどん食べよ!!

ちゃんと噛ま
なくって！

白いご飯を食
べないの!!

食べる姿勢
が悪くって!

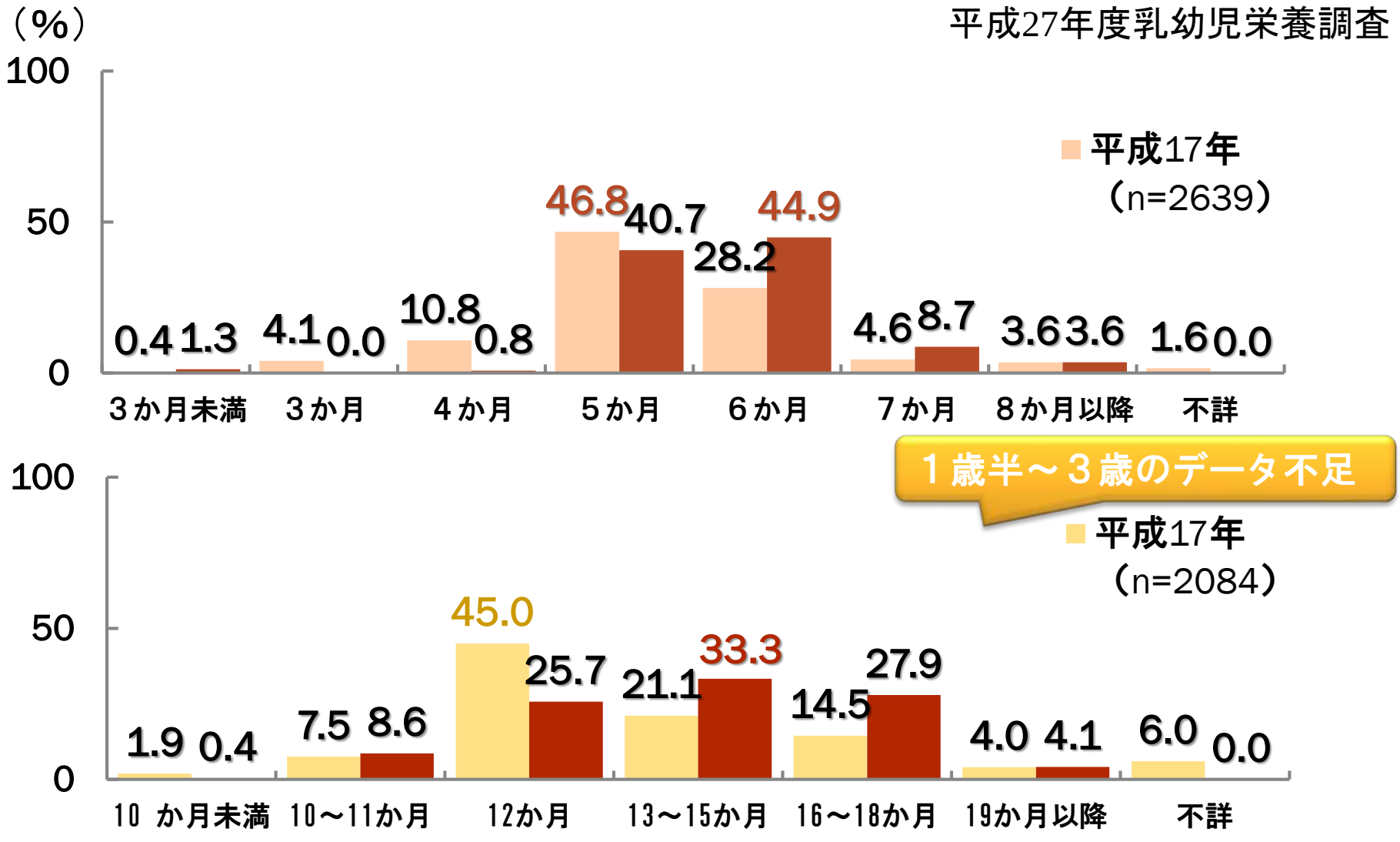
授乳や食事について不安な時期



平成17年度乳幼児栄養調査

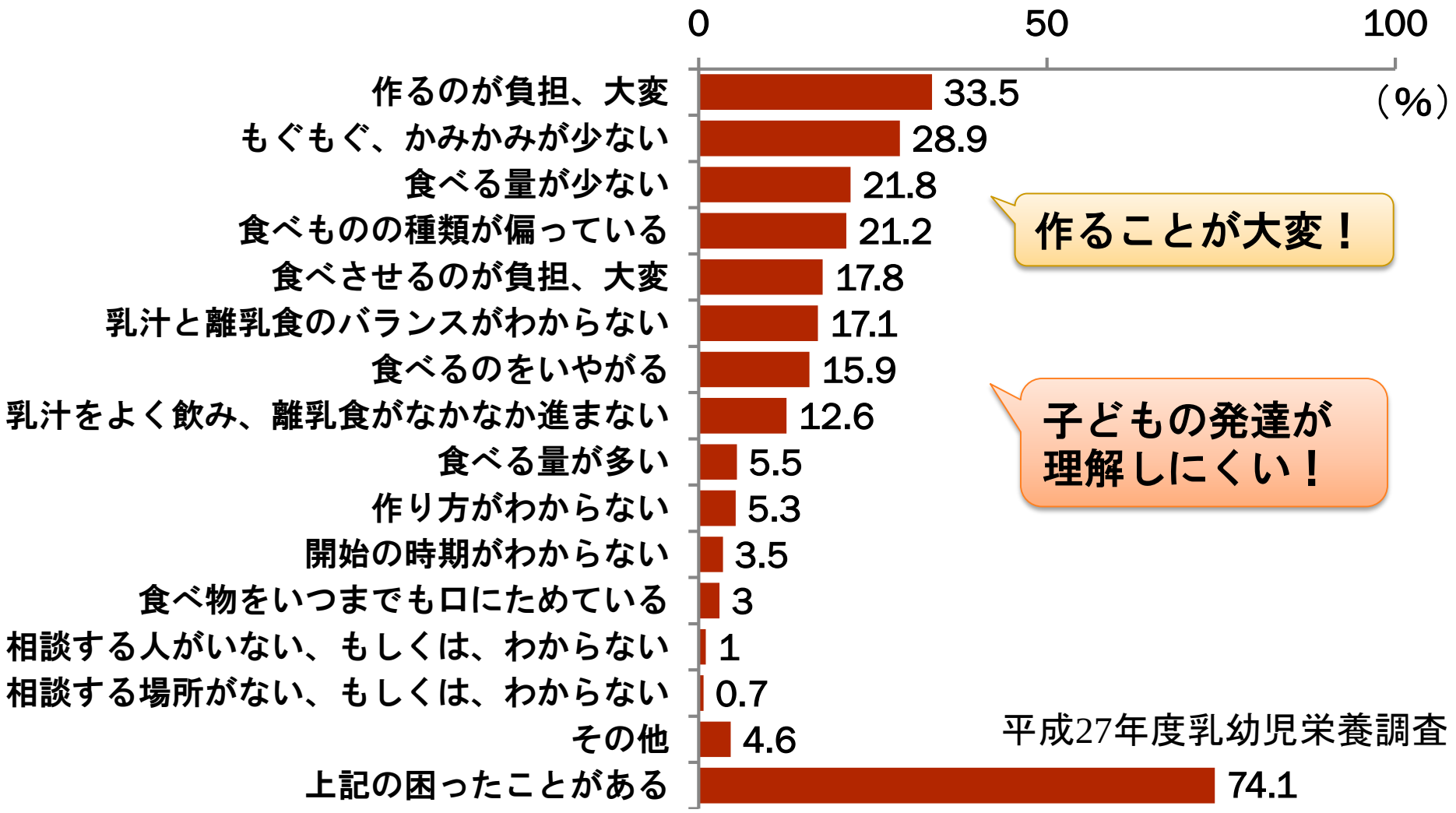
授乳や食事が不安な時期は出産直後がピーク、４～６か月で再び増加し、１歳前後で高くなる傾向

離乳の開始も完了も遅延



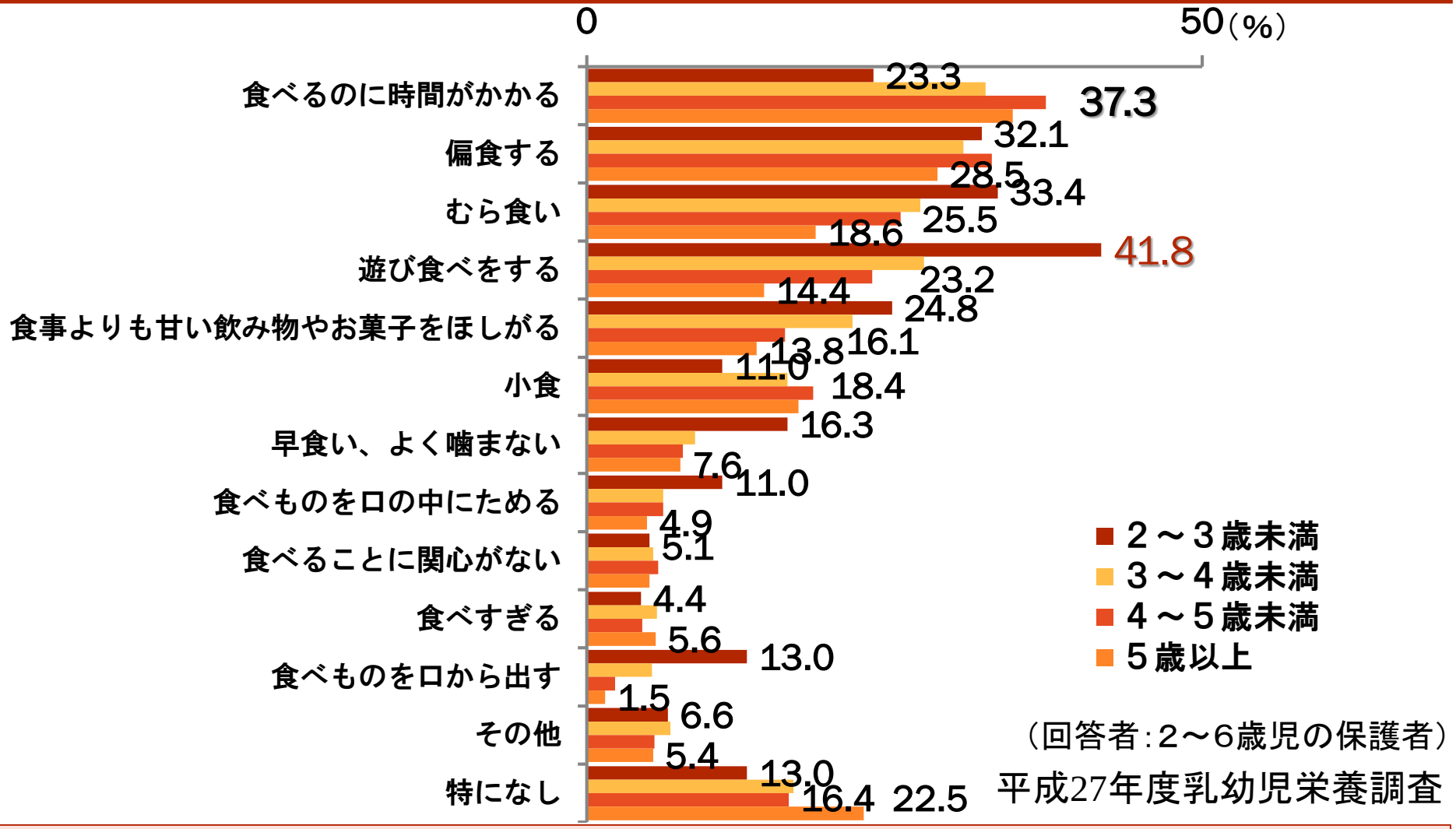
離乳開始のピーク：5か月⇒6か月。完了のピーク：12か月⇒13～15か月へ

離乳食について困ったこと



「作るのが負担、大変」33.5%、「もぐもぐ、かみかみが少ない」28.9%、「食べる量が少ない」21.8%の順。離乳食の困りごとのある保護者は75%。

現在の子どもの食事について困ったこと



（回答者：2～6歳児の保護者）

平成27年度乳幼児栄養調査

２歳～３歳未満では「遊び食べをする」41.8%と、４歳～５歳未満では「食べるのに時間がかかる」37.3%と最も高い。約８割の保護者が子どもの食事について困りごとあり。

食育がなぜ必要とされるか

少子化時代の子育ち環境
- 基本的な生活習慣ができていない
- 運動能力が低下している
- 食卓を囲む親子のかかわりが少ない
- 人と関わる経験が不足している

家庭・地域の子育て力
- **核家族化**や地縁の**希薄化**にともなう家庭や地域の**育児機能**の低下
- 食に関する知識・技術の不足
- 食をめぐる育児不安が増大

食・・・親が“育てにくさ” を感じるきっかけ？

◆食を通して子どもが十分に育つ環境を整える
◆保護者を支援することが重要

× 食育⇔子育てへの自信を失わせる？

親世代が地域の中で子育てをする安心感と その主体性を育てる観点が重要

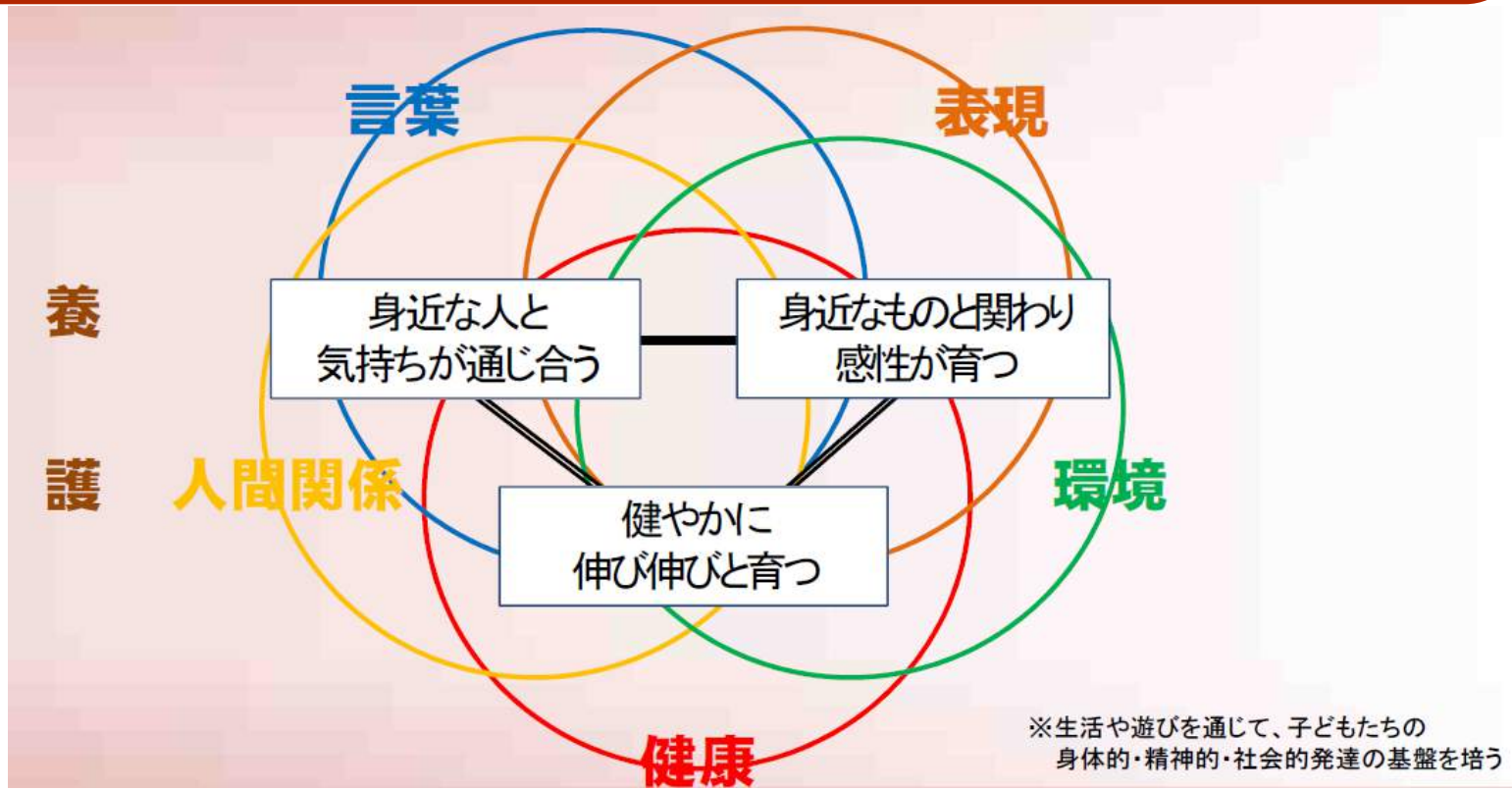
保育所等を拠点として

親同士が、また、地域の人々と、ふれあい、学びあい、支えあい、子育てを分かちあう場としての「食」に注目　食を楽しむ姿の共有！

０・１・２歳の食育

食を通して、人としての心地よさを味わう

■授乳期・離乳期
安心と安らぎの中で食べる意欲の基礎づくり
■幼児期
食べる意欲を大切に、食の体験を広げよう



幼児の食具使用の発達過程

1)年齢と共に食具の使用率は高くなるが，形態が多様である主菜・副菜料理では高年齢児でも手づかみ。

2)料理の形態に応じて「はさむ」「つきさす」等の操作方法を変える。その際，持ち方も変えて試行錯誤している。行動の対象物である料理（食物）という環境への適応性の発達。

3)食具使用は食具の特性により制約をうけ，箸を巧みに使う操作を発達させるには箸独自の操作課題がある。

4) 発達的変化は非線形的(nonlinear)な複数の動作で構成。

5) 発達的変化の鍵　コントロール・パラメーター（操作）

箸を使い初め　➡　箸を持つもう一方の手の補助的な協応動作

習熟度（高）　➡　“はさむ”食具の使い方

酒井(伊与田)・足立　1995

人間の「食」の特徴を引き出す素朴な“箸”の魅力

- ✓ 人間は、目、鼻、手、口、消化器官を使い、食物の色、匂い、温度、硬さを感じ、口に運ぶ量や速さ、噛む力を調節しながら、からだ全身で食べる。
- ✓ 手、スプーン、箸等の道具を使って食べる
  ⇒子どもの発達から再確認できる。
- ✓ 雑食、すなわち、いろいろな食物を火を使って料理して食べる。
- ✓ 食卓で人とのつながりをひきだす道具

二本の棒（箸）⇔子どものからだ、こころ、環境を探索する道具

子ども一人ひとりの食文化の形成と創造

器と箸で学ぶ食文化

器

形　：糸底があり、手をかけやすい
　　縁が立ち上がっている
重さ：軽すぎない…置いた場合、動きにくい
　　スプーンですくう時に動かず、倒れない

箸

形　：面と角がある・・・六角形・四角形
　　丸みのある箸先⇒細い箸先
材質：天然木
長さ：目安
　　２・３歳…13cm ４歳…14cm ５歳…15cm

エジソン箸等の使用の有効な時期と限界

- ◆両手の協調が発達の要！
- ◆器と箸を持ち上げ、背筋を伸ばして！
- ◆汁類はすべて器を持って口をつけて飲む
- ◆基本は箸だけで、匙（スプーン）を使わない文化

箸：酒井（伊与田）・足立2002. Wong.S,,Chan. K.,2002, 鈴木・安藤（2006首都圏双子プロジェクト）、大岡・向井2006・2013

母親　子どもの食を支える力
～グループインタビュー～

（　）内は発言数

大項目	中項目	小項目
①自分自身	**セルフコントロールをする**	**余裕を持ちたい(6)／子どものお手伝いをやりたい気持ちを受け止めたい(6)／子どもの調理へのかかわりが面倒だと思わない(6)** ／根気を持ちたい(1)
	望ましい食行動をする	好き嫌いしない(1)／姿勢を正したい(1)
	食卓での食環境を考える	テレビをつけて食べさせない(1)／食事の時に家族で会話をする(1)／家族で食事について考える(1)
	食事づくりスキルを持つ	なるべく手作りに(2)／朝食を作りたい(1)／家族の食べたいメニューを作れるように(1)／栄養バランスを考える(2)／味付けに気をつける(2)／嫌いなものを料理で工夫したい(1)／食後の片付けを面倒くさいと思わない(1)
②子ども	**子どもの食の発達を理解する**	野菜が今は嫌いだがいつか食べるだろう(1)／遊び食べをしているが、もうじきやらなくなるだろう(1)
	子どもと一緒に食の活動にかかわる	野菜づくりを行いたい(2)
	食事のマナーを教えたい	(食事のマナーを教えたいが)食べ方を強制するのは良くない(5)／食事のマナーを教えたい(1)
	調理に関わらせたい	一緒に食事づくりをしたい(3)／調理に関わらせたい(5)／子どもに家の味を伝えたい(1)
	食のありがたさを教えたい	食のありがたさを教えたい(2)／食と命のつながりを教えたい(5)
	食文化を伝えたい	日本の伝統を教えたい(2)
	子どもと共感したい	食に関して「そうだね」と子どもと共感する(1)

酒井・林・汐見他：保育科学研究2017

母親　子どもの食を支える力
～グループインタビュー～

（　）内は発言数

大項目	中項目	小項目
③保育園	保育士の子どもへのかかわりに感謝する	保育士の子どもへの関わり感謝している(7)
	保育園での食育に対して関心を持つ	給食へ感謝している(1)／保育園の活動に関心を持つ(11)／野菜づくりに関心を持つ(10)／保育園での活動を家庭でも行う(3)／保育園と家庭とつながりを感じる(2)
④夫	子どものお手本になる	食事の食べ方のモデルになってほしい(3)／一緒に食事をしてほしい(1)
	食事づくりのスキルをもつ	栄養バランスを考えてほしい(3)／食事づくりをしてほしい(12)／子どもと遊んでほしい(2)／食べたいものを言ってほしい(1)／子どもと買い物へ行ってほしい(1)
	食に興味を持つ	食に関して関心を持ってほしい(6)／食事づくりの大切さをわかってほしい(1)／子どもが保育園で食について学んでいることをわかってほしい(1)
	家族から食を学ぶ	夫は好き嫌いがあるが、子どもが嫌いなものを頑張って食べているので刺激になっている(1)／食事を手作りするようになって、夫の食に対する意識が変わった(1)

①セルフコントロールについての声が多くあがった。他にも、食事づくりのスキルを持つことも多くあげられた。
②子どもに対して食べ方を強制するのはよくないと感じつつも、食事のマナーを教えたい、食のありがたさや食と命のつながりを教えたいとの気持ちがあった。
③保育園での食育に関心を持っており、保育士の子どもへのかかわりに感謝することがあげられ、園での活動が家庭に浸透し、家庭で実践している循環がみられた。
④父親に対し、子どもの手本になる、食に興味をもってほしい等の要望があった。

父親　子どもの食を支える力
～グループインタビュー～

大項目	中項目	小項目
①自分自身	食に興味を持ちたい	食に興味を持ちたい(1)
	望ましい食行動をする	朝食を食べる(1)／家族と一緒に食事をする(1)
	食事づくりのスキルを持つ	献立が立てられる(2)／食事を作れる(3)／洗い物などの簡単な家事を行う(1)／栄養バランスを考えたい(2)／買い物ができる(2)
	子どものお手本になる	家事をやっている姿を見せる(5)／自身の父親が影響している(1)／朝食を食べる姿を見せる(1)
	子どもから食を学ぶ	子どもの様子を見て食への意識が変わった(1)／子どもが園で食材を作る大変さを学んでいるので、食べ物を大切にしたい(1)
②子ども	子どもの食発達を理解する	上の子を見ているので、下の子に期待している(5)／子どもの食に関して理解したい(2)
	子どもとかかわる	子どもとゆっくり関わりたい(1)
	子どもと食事づくりをする	包丁を使わせる(1)／一緒に食事づくりをする(2)
	子どもと食活動にかかわる	野菜づくりをしたい(9)／アウトドアをしたい(3)
③園	**園の食育に関心を持つ**	園の活動に参加する(3)／園の活動に関心を持つ(5)
	保護者や地域とつながりを持つ	保護者同士のつながりを持ちたい(3)／地域とかかわりを持ちたい(1)

①食事づくりスキルに関することが多く、父親は食事づくりに意欲あり。
②父親のみで子どもと関わることや子どもと一緒に食事づくりがあげられた。
　特に、子どもと食の活動にかかわる発言は最も多く、野菜づくりやアウトドアは父親にとって関心があることが明らかとなった。
③父親のみ保護者や地域とかかわりを持ちたいという発言があった。

4．保育所における食育の特徴

子どもが心を動かす食に関わる体験とは？

体験	年齢	育ってほしい姿

- ✓ 子どもがやってみたいと試行錯誤している…「主体的な学び」
- ✓ 周りの子どもたちと知恵を出し合う…「対話的な学び」
- ✓ 小さな気づきが積み重なりつながる…「深い学び」

「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿」
①健康な心と体
②自立心
③協同性
④道徳性・規範意識の芽生え
⑤社会生活との関わり
⑥思考力の芽生え
⑦自然との関わり・生命尊重
⑧数量・図形・文字等への関心・感覚
⑨言葉による伝え合い
⑩豊かな感性の表現

牛との出会い・餌やり、乳搾り体験

生命尊重概念の育成を！

牧場への散歩＋バター作り

眠いのかな？恥ずかしいのかな？こっち向いて！

どうやったらバターができるかな？

牛さんも日向ぼっこ中～。

なんだか固まってきたよ!

みんなでフリフリ！できるかな～！

大根の種まきと芽の観察

小さいね！これから
どうなるんだろう！

大根、大切にしなくちゃ。
毎日、元気かなって見に
来ようね！

かわいい！

これから、土の下に
大根ができるんだよ！

大根収穫と切干大根作り・調理

子どもの気づき・発見に学ぶ食の世界

生命認識と食の営みからの分類項目

	大項目	中項目	小項目
生命認識※	牛・大根の個体の維持	物質代謝	栄養・摂食，排泄，体温
		形態	大きさ，色，外見，重さ，種類，匂い
		反応	動き，休息，発音・鳴く，知能・感情
		生態	
		存在（名前）	
	牛・大根の種の維持	生殖・出産・授乳・性差	
		成長・変化・年齢	
		死（出荷）	
心情	子どもの心情との関係	快の感情	かわいい・快い・大切・親しみ
		不快の感情	気持ち悪い・怖い・悲しい・拒否
		感動・驚嘆・疑問	
食の営み	子どもの食の営みとのつながり	種まき	
		観察する	
		みずやり・エサやり・いたわる	
		収穫	
		搾乳	
		殺菌	
		加工・調理（洗浄）	バター作り・切干大根調理
		子どもの喫食	
		農業・酪農・食経験	

※生命認識は堅田（1974）に準拠

子どもの生命認識に関する発話（%）

大項目	中項目	小項目	肉牛の餌やり (165)	乳絞り (130)	チーズ工房牧場散歩 (214)	バターの加工と摂食 (96)	種まき (292)	大根の芽観察画 (52)	収穫 (120)	切り干し大根（調理・摂食）(53)	計
個体の維持	物質代謝	栄養・摂食	6.1	0.8	**12.6**			5.8			3.7
		排泄	**3.1**		2.3						0.9
		体温	0.6	**1.5**							0.3
	形態	大きさ	0.6	0.8	7.0		3.4	5.8	**10.8**	1.9	3.9
		色	1.8		6.5		2.7	**13.5**	1.7		3.0
		外見	6.1	6.9	7.0			**13.5**	6.7		4.4
		重さ							**2.5**		0.3
		種類	0.6	2.3	**6.5**		**6.2**	3.8			3.4
		匂い	1.2		**3.3**		**3.1**				1.6
	反応	動き	0.6	3.1	**7.0**						1.8
		休息			**1.4**						0.3
		発音・鳴く	2.5	**11.5**	0.5						1.8
		知能・感情		0.8	**3.3**						0.7
	生態				0.5		**8.9**	1.9			2.5
	存在（名前）		0.6	0.8	**9.8**		1.7		1.7		2.7
種の維持	生殖・出産・授乳・性差		1.2	**10.0**	**8.9**	3.1					3.3
	成長・変化・年齢			2.3	4.7		**9.9**	**11.5**			4.3
	死（出荷）		0.6	0.8	0.5			1.9			0.4

χ^2検定：値501.98　p=0.000　調整済み残差2.0以上を太字

酒井・無藤・林・栗原・森・村上（2015）

子どもの心情と食の営みに関する発話

（%）

大項目	中項目	小項目	肉牛の餌やり (165)	乳絞り (130)	チーズ工房牧場散歩 (214)	バターの加工と摂食 (96)	種まき (292)	大根の芽観察画 (52)	収穫 (120)	切り干し大根（調理・摂食） (53)	計
子どもの心情との関係	快（かわいい・快い・大切）		6.1	**17.7**	**9.3**		6.2				6.3
	不快（気持ち悪い・怖い・拒否）		**34.4**		0.9		0.3				5.3
	感動・驚嘆・疑問			1.5	0.5		4.5		1.7		1.6
子どもの食や命とのつながり	種まき						**33.6**				8.8
	観察する							**30.8**			1.4
	水やり・エサやり・いたわる		**34.5**		3.7		4.8	7.7	0.8		7.3
	収穫						3.8		**29.2**		4.1
	搾乳			**27.7**	0.9						3.4
	殺菌			**6.2**							0.7
	加工・調理（洗浄）				0.5	**71.9**	7.2		**40.8**	**80.8**	16.3
	子どもの喫食			1.5		**25.0**			1.7	**17.3**	3.3
	農業・酪農・食経験			3.8	2.3		3.8	3.8	2.5		2.3

χ^2検定：値3056.85　p=0.000　調整済み残差2.0以上を太字

酒井・無藤・林・栗原・森・村上（2015）

研究結果を踏まえた実践の提言

- 乳を搾る・調理をする等の行為以上に、世話をする・観察する行為を重視し、そこでの子どもとの言葉による伝え合いが重要。子どもがしたり、見たり、聞いたり、感じたり、味わったことを言葉で表現できるように。
- 乳搾りや加工・調理等の場面でも物理的・化学的変化の気づきと共に、ウシの世話をして慈しみ、乳を分泌するまでのウシの誕生や成長といったプロセスを子どもに気づかせていく。
- 栄養摂取や排せつなどの物質交換、形態、反応、生態等の個体の維持に関する内容と、出産・授乳・性差・年齢や成長・変化、そして死等の種の維持に関する内容をやり取りし、子どもが自らの身体やその仕組みと対話させつつ、「ウシ」を生きる存在、成長する存在として、アイデンティティを見出せるように支援する。
- 酪農家はウシに語りかける等して心的機能を付与し、かわいい、大切にしたい等の愛着や親しみとなる快の感情移入を通して、ウシをいかに慈しんで育てているか、子どもと対話していく。

「ウシ・乳」を活用し、**生命尊重概念**の萌芽、生命あるものとの**共生感**の発達をめざしたプログラムの開発

酒井，無藤，林，栗原，森，村上（2015）

「改定 保育所保育指針」における食育の推進

２ 食育の推進

期待目標

⑴ 保育所の特性を生かした食育

ア 保育所における食育は、健康な生活の基本としての**「食を営む力」**の育成に向け、その**基礎**を培うことを**目標とすること。**

イ 子どもが生活と遊びの中で、意欲をもって**食に関わる体験**を積み重ね、食べることを楽しみ、**食事を楽しみ合う子ども**に成長していくことを期待するものであること。

ウ 乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われるよう、食事の提供を含む**食育計画を全体的な計画**に基づいて作成し、その評価及び改善に努めること。**栄養士が配置されている場合は、専門性を生かした対応を図ること。**

「改定 保育所保育指針」における食育の推進

⑵ 食育の環境の整備等

ア 子どもが自らの感覚や体験を通して、自然の恵みとしての食材や**食の循環・環境**への意識、調理する人への感謝の気持ちが育つように、子どもと調理員等との関わりや、**調理室**など食に関わる保育環境に配慮すること。

食事・調理室・・・　食育の環境＝教材

イ **保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働の下で、食に関する取組が進められること。また、市町村の支援の下に、地域の関係機関等との日常的な連携を図り、必要な協力が得られるよう努めること。**

ウ 体調不良、食物アレルギー、障害のある子どもなど、**一人一人の子ども**の心身の状態等に応じ、嘱託医、かかりつけ医等の指示や協力の下に適切に対応すること。**栄養士**が配置されている場合は、専門性を生かした対応を図ること。

ア　健やかに伸び伸びと育つ

健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力の基盤を培う。

望ましい食習慣の形成が重要

(ア)ねらい

①身体感覚が育ち、快適な環境に心地よさを感じる。
②伸び伸びと体を動かし、はう、歩く等の運動をしようとする。
③**食事**、睡眠等の生活のリズムの感覚が芽生える。

(イ)内容

①保育士等の愛情豊かな受容の下で、生理的・心理的欲求を満たし、**心地よく**生活をする。
②一人一人の発育に応じて、はう、立つ、歩くなど、十分に体を動かす。
③**個人差に応じて授乳を行い、離乳を進めていく中で、様々な食品に少しずつ慣れ、食べることを楽しむ。**
④一人一人の生活のリズムに応じて、安全な環境の下で十分に午睡をする。
⑤おむつ交換や衣服の着脱などを通じて、清潔になることの**心地よさ**を感じる。

和やかな雰囲気の中で食べる喜びや楽しさを味わい、進んで食べようとする気持ちが育つ

イ　身近な人と気持ちが通じ合う

受容的・応答的な関わりの下で、何かを伝えようとする意欲や身近な大人との信頼関係を育て、**人と関わる力**の基盤を培う。

(ア)ねらい

①安心できる関係の下で、**身近な人と共に過ごす喜び**を感じる。
②体の動きや表情、発声等により、保育士等と気持ちを通わせようとする。
③身近な人と**親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感**が芽生える。

(イ)内容

①子どもからの働きかけを踏まえた、**応答的な触れ合いや言葉がけ**によって、欲求が満たされ、安定感をもって過ごす。
②体の動きや表情、発声、喃語等を優しく受け止めてもらい、保育士等とのやり取りを楽しむ。
③生活や遊びの中で、**自分の身近な人の存在に気付き、親しみの気持ちを表す。**
④保育士等による語りかけや歌いかけ、発声や喃語等への応答を通じて、言葉の理解や発語の意欲が育つ。
⑤温かく、受容的な関わりを通じて、**自分を肯定する**気持ちが芽生える。

ウ　身近なものと関わり感性が育つ

　身近な環境に興味や好奇心をもって関わり、感じたことや考えたことを表現する力の基盤を培う。

探索意欲を満す

食べもの

(ア)ねらい

①身の回りのものに**親しみ、様々なものに興味や関心**をもつ。
②**見る、触れる、探索する**など、身近な環境に自分から関わろうとする。
③身体の諸感覚による認識が豊かになり、表情や手足、体の動き等で表現する。

食べもの

(イ)内容

①身近な生活用具、玩具や絵本などが用意された中で、身の回りのものに対する興味や好奇心をもつ。
②生活や遊びの中で様々なものに触れ、**音、形、色、手触りなどに気付き、感覚の働きを豊かにする。**
③保育士等と一緒に様々な**色彩や形のものや絵本など**を見る。
④玩具や身の回りのものを、**つまむ、つかむ、たたく、引っ張るなど、手や指を使って**遊ぶ。

手づかみ食べ

⑤保育士等のあやし遊びに機嫌よく応じたり、歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しんだりする。

食育と育ってほしい姿との関連

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

食育の内容
（食を営む力の基礎を培う観点）

- 食と健康
- 食と人間関係
- 命の育ちと食
- 食と文化
- 料理と食

5項目

保育所における食育に関する指針（H16）

保育の内容
（子どもが現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う観点）

- 健康
- 人間関係
- 言葉
- 環境
- 表現

教育の5領域

生命の保持　情緒の安定

養護

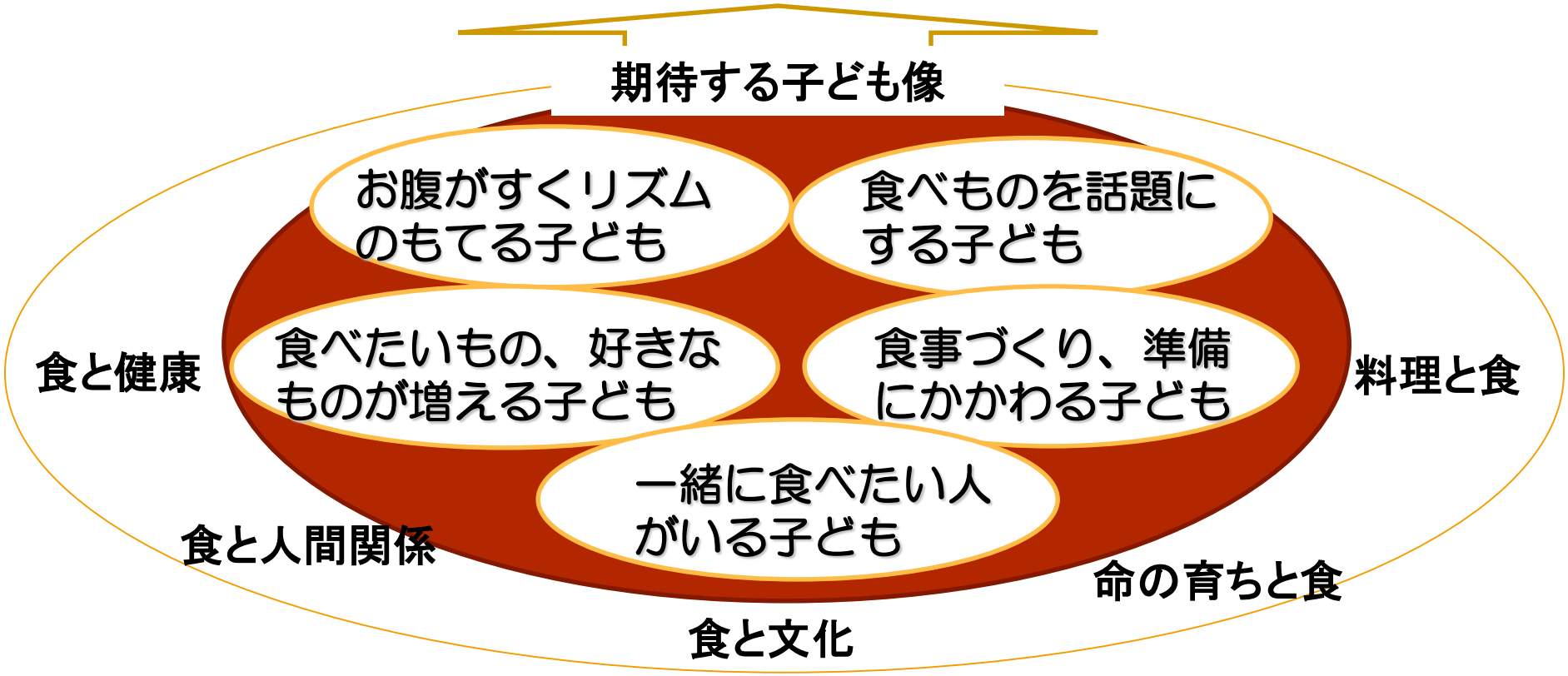
保育所保育指針（H29）

教科カリキュラムではなく、
経験カリキュラム
「learning by doing」

保育所における食事提供の意義

教育的役割

〈目標〉
現在を最もよく生き、かつ、生涯にわたって健康で質の高い生活を送る基本としての「食を営む力」の育成を目指し、その基礎を培うこと



保育所における食育に関する指針
酒井他「保育所における食育のあり方に関する研究」，厚生労働省　2004.3

子どもの「食の見方・考え方」を提案
～保育所における食育に関する指針～

＜発達過程区分＞

６か月未満、６か月～１歳３か月、
１歳３か月～２歳未満、２歳児、３歳以上児

＜ねらい＞

- 食育の目標をより具体化
- 子どもが身につけることが望まれる**心情、意欲、態度**

＜内容＞

- 食と健康
- 食と人間関係
- 食と文化
- いのちの育ちと食
- 料理と食　　・・・３歳未満児は一括して表示

科学的根拠の集積が必要！

5．子どもの食育をめぐる政策課題

食の公平性の保証「栄養に関する世界宣言」1992

- ✓ **子どもの貧困と食**

  「栄養学的に適切かつ安全な食物へのアクセスは各人の権利である」 ⇐ **食環境及び社会環境の整備**

幼児教育と食との接点が希薄！

- ✓ **関係省庁が多岐にまたがり、政策評価をしにくい**

  内閣府・厚生労働省（健康局・子ども家庭局）・文部科学省・農林水産省・消費者庁

- ✓ **幼稚園・認定こども園・保育所をつなぐ給食法の実現**
- ✓ **専門家（保育士・教諭，栄養士・栄養教諭）の養成とキャリアアップ**
- ✓ **自治体の公共性と子どもの食事の提供（給食）**

二宮 厚美:自治体の公共性と民間委託—保育･給食労働の公共性と公務労働　2000

保育所等での食事の提供が果たす役割

適切な環境構成＝食事が子どもの育ちをaffordする

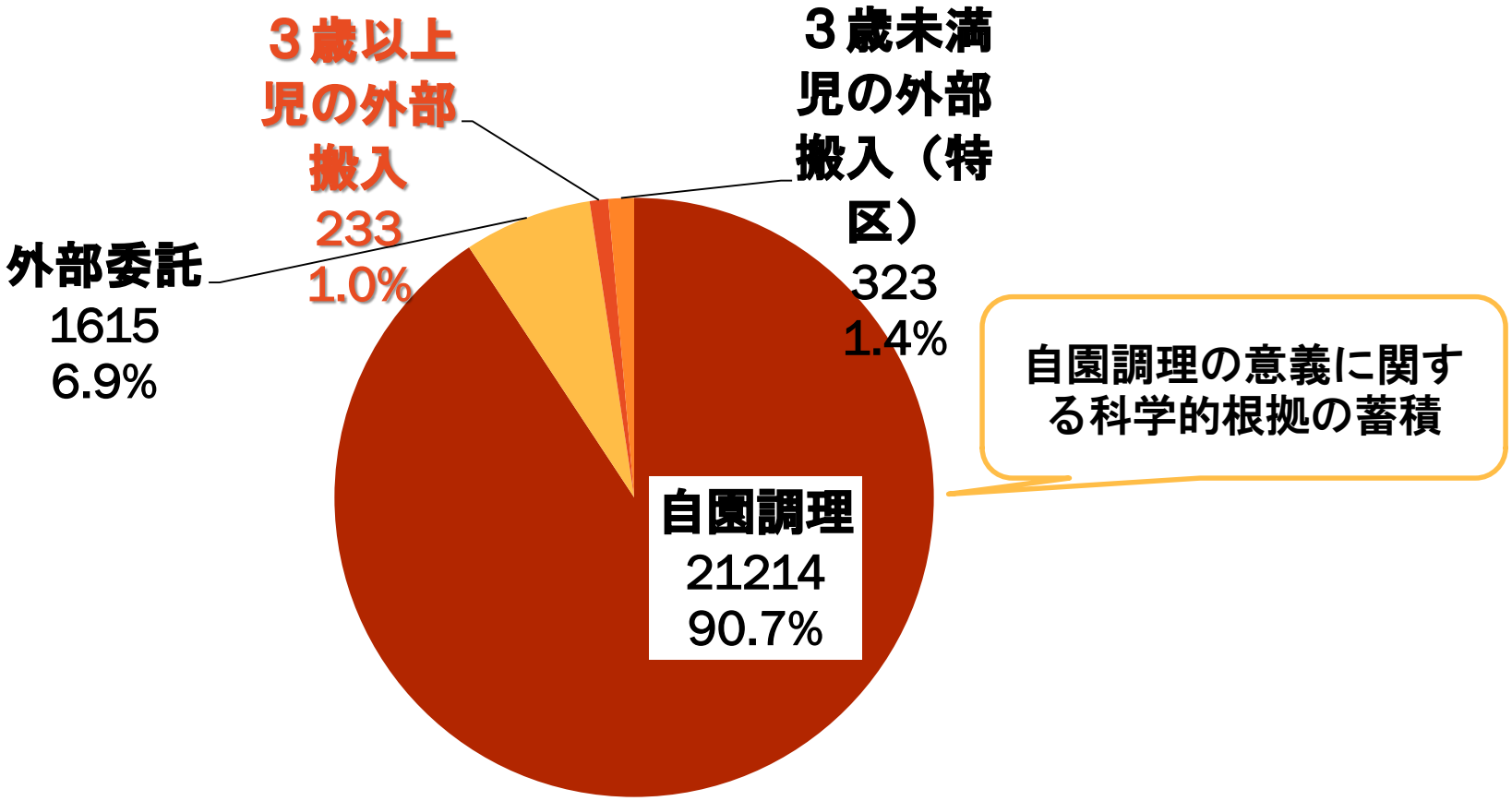
子どもが自らの感覚や体験を通して、**自然の恵みとしての食材**や**食の循環・環境**への意識、調理する人への**感謝の気持ち**が育つように、子どもと調理員等との関わりや、**調理室**など食に関わる保育環境に配慮すること。

人的・物的環境を計画的に構成する

食事・調理室・・・教材
食事提供＝身体に入る環境構成

保育所保育指針　第３章－２（２）－ア

保育所・認定こども園の食事提供をめぐる現状



保育所での食事の提供形態

都道府県･指定都市･中核市（計107自治体）調査

認定こども園タイプ別
３歳以上児の昼食の食事提供の形態

N	幼保連携型 356	幼稚園型 181	保育所型 96	地方裁量型 14	全体 647
毎日、自園調理	60.4%	43.1%	90.6%	78.6%	60.4%
毎日、外部委託	9.0%	6.6%	5.2%	7.1%	7.7%
毎日、外部搬入	5.9%	5.0%	3.1%	7.1%	5.3%
毎日、業者からの弁当	0.0%	3.2%	0.0%	0.0%	0.9%
毎日、家庭からの弁当	1.1%	1.1%	0.0%	0.0%	0.9%
曜日をきめて、外部搬入と家庭からの弁当	4.8%	12.7%	0.0%	0.0%	6.2%
曜日をきめて、業者または家庭からの弁当	3.4%	13.3%	0.0%	0.0%	5.6%
曜日のきめて、自園調理と家庭からの弁当	3.4%	4.4%	1.0%	7.1%	3.4%
その他	12.0%	10.6%	0.1%	0.1%	9.6 %

χ^2検定　$p<0.01$

酒井治子：幼保一元化施設における食育（食事提供）のあり方に関する研究，こども未来財団，平成25年度児童関連サービス調査研究事業等報告書，2014

自園調理は保育所型で9割、幼保連携型で6割、幼稚園型で4割。幼稚園型は業者や家庭からの弁当、曜日によって複数形態の組みあわせが多い。

保育所の食育と食事提供をめぐる制度の経緯

	食育・食事提供に関する指針等	食事の提供に関する規制緩和
H10.3	平成10年度日本栄養士会「子どもの健康づくりと食育の推進・啓発事業」	○保育所における調理業務の委託容認 ○幼稚園と保育所の施設の共用化等に関する指針について
H16.3	「楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針～」	一定の要件を満たす場合に公立保育所の給食の外部搬入を容認
H17.6	食育基本法の公布	
H20.3	保育所保育指針の改定・告示	
H22.3 H22.6	児童福祉施設における食事の提供ガイド	構造改革特別区域において講じられた規制の特例措置の評価に係る評価・調査委員会の意見に関する政府の対応方針 満３歳以上児に対する食事の提供に限り、公私を問わず全国展開、３歳未満児は公立のみ引き続き特区申請をし、認定を受けた場合に外部搬入を容認
H24.3	保育所における食事の提供ガイドライン	認定子ども園法の改正
H29.3	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂・告示	**３歳未満児の外部搬入の容認はいつ？**

FooLog等の食支援システムの構築

家庭版

- 子どもの「食の育ち（栄養摂取を含む）」を記録し、確認できるツール
- 親の「子どもの食」を支える力の評価ツール
- 親自身の食を営む力、食を通してめざす姿の形成支援ツール
- 家庭での環境構成を支援し、双方向の情報発信ツール（例：離乳食の作り方、献立構成力等　動画）

専門家

- 子どもの「食の育ち（栄養摂取を含む）」を記録し、確認できるツール
- 保育者の「子どもの食」を支える力の評価ツール（キャリア形成と研修計画へ）
- 保育者の食を営む力、食を通してめざす姿の形成支援ツール
- 園での環境構成を支援し、双方向の情報共有ツール（指針要領等、実践事例等）

地域の食環境・関係機関との連携ツール

食事記録と
食事の教材化

- 実態把握と、情報提供
- 乳幼児、特に、3歳未満児の食事調査、評価方法が不明瞭
- 家庭での食事データ

⇒食事摂取基準のデータ不足

佐藤（2013）、佐藤・岩部・吉池（2012）

Keiko A. , Megumi H. Miyuki A., Haruko S, Chiko T and Satoshi S.

学際的な研究

課題と今後の計画

1．乳幼児の食事記録（遊び食べ期が困難）と成長・発達との関連

その時々の親の育児の自信に！　食事評価法の確立とコホート研究

2．乳幼児の食を通した育ち（食を営む力）過程とめざす姿、その要因（生活行動）の解明

⇨幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

●子どもの**公共性認識**の形成～和食が新しい切り口かも～

⇨「私の食からみんなの食へ」

3．子どもの食を支える力とは何か？

保護者（父親・母親の特性と個人的知識・態度・スキルの向上）

食にかかわる**「育てにくさ」**とその対

保育者（保育士・栄養士等の専門性とキャリアアップ）

健やか親子21

4．フードシステムの各拠点が果たす役割、地域の組織化の評価